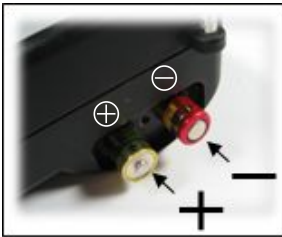
2010年9月

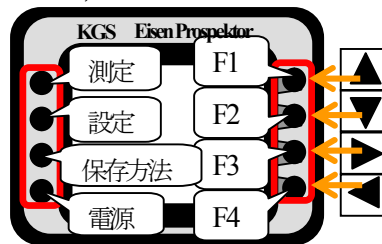
Eisen Prospektor(EM-01)簡易マニュアル

アイゼン　　プロスペクター

㈱計測技術サービス

1, 機器の事前準備

1-1, 本体へ単三電池6本を入れます。

1-2, 本体とプローブを信号ケールで接続します(両端コネクタは同型で、どちらでも接続可能)。

1-3, 各ボタンの機能

型式：EM−０１

2, 電源投入と測定鉄筋径の設定

2-1, 電源ボタンを2秒以上押します。

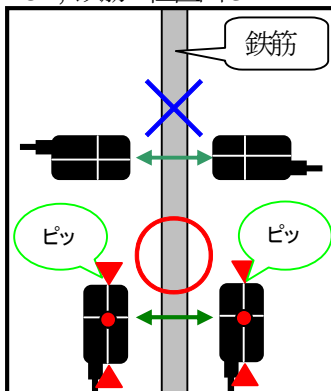
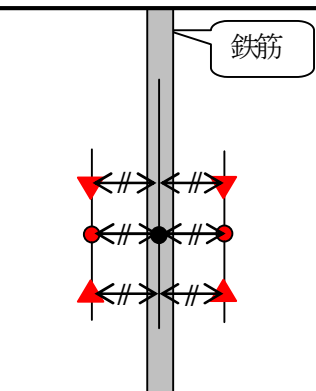
2-2, メニュー画面が表示されます。

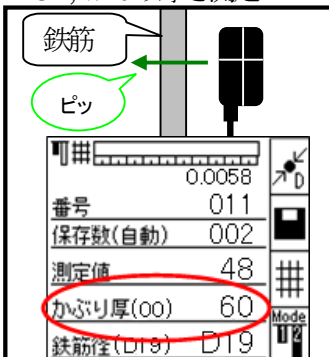
2-3, F3(▶)ボタンを押しD16に下線を表示させます。

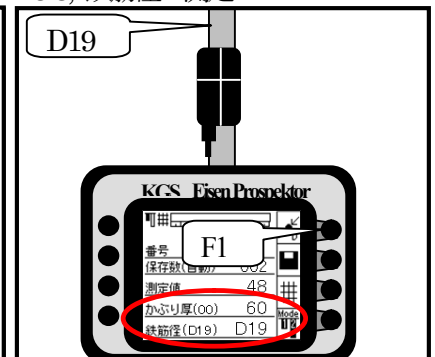
2-4, 下線が表示されている状態でF1(▼),F2(▲)を押し鉄筋径を変更します。

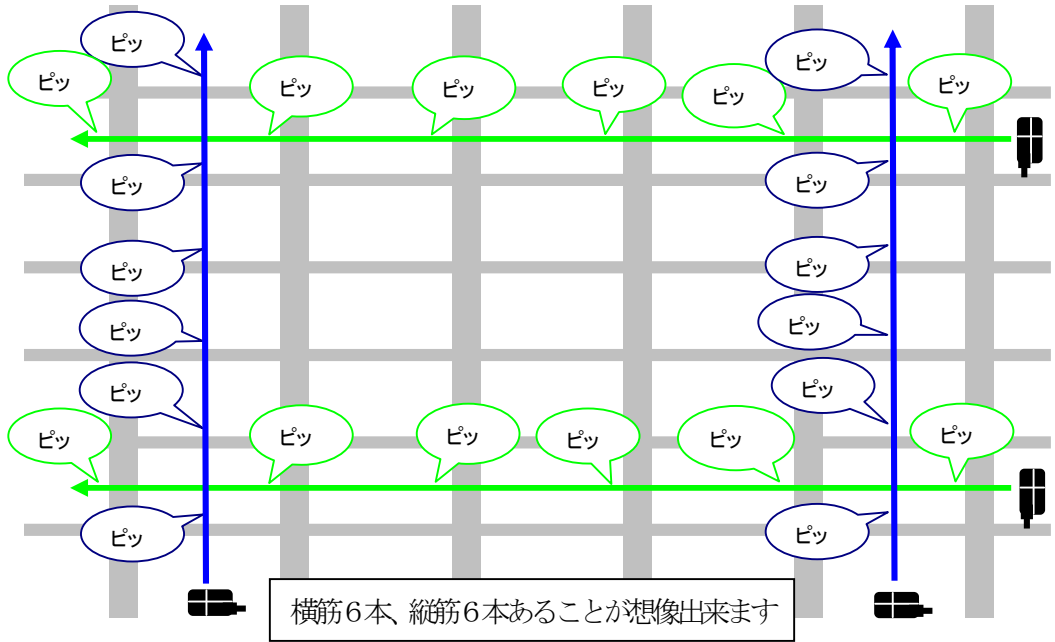
2-5, 鉄筋径変更後、測定ボタンを押すと同時に「初期化」し、測定画面へ切り替わり、測定することができます。

3, 鉄筋の測定

3-1, 鉄筋の位置出し

鉄筋に対し、プローブを平行に左右へ移動させ、鉄筋を通過すると、「ピッ」と音が鳴ります。その位置へマークします。

左右マークの中心位置が鉄筋位置になりますが、プローブが測定したポイントは、中心の黒丸位置です。

3-2, かぶり厚さ測定

プローブが鉄筋の真上を通過後、「ピッ」と音が鳴り、同時に「かぶり厚」右側の数値が更新されます。かぶり厚さ60mmと測定されています。

3-3, 鉄筋径の測定

プローブを鉄筋の真上へ同じ方向に設置します。その状態で[F1]ボタンを押すと、推定鉄筋径を表示します。また、推定した鉄筋径でのかぶり厚さも同時に測定します。

4, あらかじめ、測定箇所の鉄筋本数とかぶり厚さを把握しましょう

横筋６本、縦筋６本あることが想像出来ます

5, 測定中の画面説明

プローブ

かぶり厚さ
40mm

測定値　52mm
（リアルタイム測定値）

D16

6, プローブが発生する磁場の影響

精度よく測定できる配筋状態　B≧A×1.5

鉄筋探査中にプローブが発生する磁場の範囲内へ、鉄筋１本の場合は精度良く測定できます。しかし、範囲内に、その他の鉄筋やセパレーター(金属類)などがある場合、その影響を受け、精度良く測定できない場合があります。

＊ご注意
・取扱説明書の精読をお願いします。
・装置の探査性能を考慮した探査判定をしてください。